

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ（家政教育専攻）

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。                  (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。                  (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。                  (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。                  (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3：DP達成のために特に重要な目標 2：DP達成のために重要な目標 1：DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S550002	赤塚朋子	家庭経営論	まず学問背景である家政学や家庭経営学について考察し、次に家庭科という教科の教育内容としての家庭経営に焦点をあて、社会の変化とのかかわりで家庭生活の変遷をたどり、その後、家庭生活の経営と管理の各論と家庭経営における現代生活の課題を検討する。	家庭科の教科専門の柱の1領域の位置づけです。	私達の生活拠点である家庭を中心とした生活経営に関する知識を習得するとともに、家庭生活の諸問題を社会との関わりでとらえ、生活課題を解決する基礎力を培うことを目標とする。	3	1	2	1	2
S551009	清水裕子	衣生活論	家庭科教育の中で必要と考えられる衣生活の内容として、以下のことがあげられる。1着ることの意味、2衣服の素材と構造、3衣服を着る、4衣服を取り扱う、5衣生活の今日的課題、6地域の生活と衣服。衣服の素材については衣服素材論で、衣服の構成については被服構成論で、衣服の取扱いについては衣管理論で講義を行うため、衣生活論においては、心理的、社会的、物理的環境としての衣服を考慮しつつ、着ることの意味および衣服の素材と構造による衣服の着用特性について講義を行う。また、衣活の今日的課題について、地域の生活と衣服についても触れる。このような面から衣生活について学習する。	中学校および高等学校教員免許取得のために必要な科目である。家庭科の衣生活領域として必要な内容で構成している。	本授業の内容を学習することにより、衣生活のあり方を考えることができるようになることを到達目標とする。	3	2	2	2	2
S556000	清水裕子	被服構成実習	日本の伝統的衣生活形態である和服について大裁女物半長着の中から浴衣を取り上げ、浴衣の製作法と着装法を学び、和服構成（平面構成）の基礎知識・技術を習得する。	教職免許状（家庭科）の取得に必要な科目である。浴衣の実物製作を通して、小学校・中学校・高校での家庭科被服分野における教材研究を行い、資格取得に必要な内容を盛り込んだ授業を提供する。	浴衣の実物製作を通して、中学・高校家庭科被服分野における教材研究を行う。また、手縫いは小中学校家庭科において基礎的な技能であるので、手縫いの技法について理解を深める。	2	1	3	3	2
S552005	大森玲子	食生活論	現代の食に関する現状と課題について、食と健康、食の安全と衛生、食文化について講義する。また、郷土食や伝統食に関して各自で調査を行い発表する。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための必修科目であるとともに、学校現場で必要とされる食育の指導を行う際に必要な「食」に関する基礎知識を修得する。	・我々の食生活における現状と課題、日本および世界の食文化、食と健康（特に生活習慣病との関連）、食の安全と衛生、の4項目に関する基礎知識を養う。 ・望ましい食生活を実践する上での基礎的な知識と技能を修得する。	3	2	1	2	1
S557007	大森玲子	調理実習	小学校、中学校、高等学校で行う調理実習の内容について、和食、洋食、中華、韓国等のメニューを段階的に取扱い、最後に各班で献立立案から実習までを行う。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための必修科目であり、調理における基礎技能を修得する。	・基本的な調理操作や調理材料の取扱い、調理科学的知識に基づいた実践力、郷土食や伝統食への理解、環境を意識したエコクッキングおよび食材の廃棄、の4項目について修得する。	3	2	2	1	1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (家政教育専攻)

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。</p> <p>(B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S553001	陣内雄次	住生活論	住居の歴史的成立の背景と変遷、戦後の住宅政策と住様式の変遷、住まいと生活の関係を中心に講義する。また、これらの題材を基にどのように授業を展開するかなども取り上げる。	家政教育専攻の教科専門科目であり、中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための必修科目であり、家政教育専攻の1専門分野である「住居学」の基礎としての意義を持つ。	・住居の基礎を学ぶことで、自らの住生活に積極的に関わっていく基本的知識と態度を養う。 ・基本的知識を基に住居の授業展開を理解できるようになる。	3	2	1	1	1
S554016	良 香織	保育論	子どもと発達、子どもと環境、子どもと社会といった保育に関する基礎的な知識について学習する。	家政教育専攻の教科専門科目として保育に関する基本的知識を提供するとともに、自ら。	一般的には就学前の乳幼児の子育てを「保育」と称している。自分で自分を守ることのできない幼い子を「保」護しながら、潜在的な多様な能力を「育」成するという意味である。本授業では、乳幼児を中心にしながら、児童福祉法の対象である乳幼児から18歳までの子どもにまで学習内容を広げ、子どもの育ちと環境（社会環境、家庭環境、家族関係、友達関係など）との関係を子どもの心身の発達を踏まえて理解し、子育て支援のあり方について具体的に考える。	1	2	3	1	2
S558003	非常勤(川瀬)	家族関係論	家族の関係を視点において、さまざまな側面から考察する。	教科における専門教育科目です。	1. 少子化が深刻となっている現状において、保育所の持つ子育て支援の役割と重要性について理解する。 2. 現在の社会状況下での「家庭」「家族」の意味と機能について理解する。 3. 我が国が現在行っている子育て支援・家庭支援施策の内容について理解する。 4. 家族・家庭の福祉を図るための種々の援助活動及び関係機関との連携について理解する。	1	2	2	1	2
S559000	赤塚朋子	生活経済論	家庭科の専門領域として、家計から経済をとらえる視点が重要である。そこで、生活者の視点にたった経済システムの構築の展望を目指す前提として、経済のしくみ、国民経済と家庭経済、「家計調査」を用いて宇都宮市を例に具体的な作業を行いながら実態を把握し、生活経済の今日的課題について検討する。	教科における専門教育科目です。	消費生活を営む家庭生活を対象として、生活者をとりまく経済的・社会的環境との関係、実態、変化、問題を明らかにし、生活者の視点にたった経済システムの構築を展望することを目標とする。	2	2	1	2	1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ（家政教育専攻）

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。                  (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。                  (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。                  (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。                  (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3：DP達成のために特に重要な目標 2：DP達成のために重要な目標 1：DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S581005	佐々木和也	生活環境論	快適な生活環境を考える上で必要な論点を衣生活を切り口にして整理し、それらがもつ基本的な問題や諸課題について基礎的な考え方を講義する。	中学校・高等学校「家庭」の免許を取得するための選択必修科目であり、生活と環境についての基礎知識を養成する。	・身近な生活から環境問題を捉えられるようになる。 ・生活を多面的に考えることができるようになる。 ・環境問題解決に果たす生活者の役割を考慮することができるようになる。	3	2	1	1	2
S560008	佐々木和也	被服素材論	衣生活環境を考えるうえで必要となる被服素材について、材料学的視点から繊維の物理化学的特性について講義する。	中学校・高等学校「家庭」の免許を取得するための選択必修科目であり、快適な衣生活を指導するための材料学的知識を養成する。	・高分子材料としての繊維の基礎知識を修得する。 ・繊維集合体としての糸・布の基礎知識を修得する。 ・快適な衣生活について材料学の視点から考えられるようになる。	3	2	2	1	1
S569005	清水 裕子	衣管理論	衣服は着用によって汚れが付着し、本来持っている性能が低下する。衣服の性能を保持していくために洗濯は不可欠である。洗濯に必要な、水、洗剤について理解し、衣服の外観の再生にもつながら漂白や仕上げ、さらに正しい保管の方法などの知識についても身につける。  また、洗濯排水や繊維製品の廃棄などの環境問題についても考える。	家政教育専攻の専門科目として、被服の管理に関する基礎知識を習得する事を目標としている。	小中高家庭科教員として必要な被服管理関連の基礎知識を習得する事を到達目標とする。	2	3	2	2	2
S561007	大森玲子	栄養学	各栄養素の種類や代謝、生理作用について、また、エネルギー摂取量や消費量のアンバランスが生活習慣病に繋がること等について講義する。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための選択必修科目であるとともに、学校現場で必要とされる食育の指導を行う際に必要な「栄養」に関する基礎知識を修得する。	・各栄養素の種類や代謝・生理作用について基礎知識を修得する。 ・エネルギー代謝と算出方法を理解し、活用できる。	3	2	2	1	1
S561010	大森玲子	食物科学	食品に含まれる成分や特性、調理過程における食品材料の化学的・物理的变化について、また、食の安全を確保するための食品衛生に関する基礎知識について講義する。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための選択必修科目であるとともに、調理実習を行う際に大切な栄養となる調理科学的視点を養う。	・食品に含まれる成分や特性、おいしさ等の基礎知識について修得する。 ・調理過程における成分間反応について理解し、調理科学的視点をもって調理操作を捉えられるようになる。	3	1	2	1	1
S571000	大森玲子	食物科学	食品に含まれる成分や特性、調理過程における食品材料の化学的・物理的变化について、また、食の安全を確保するための食品衛生に関する基礎知識について講義する。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための選択必修科目であるとともに、調理実習を行う際に大切な栄養となる調理科学的視点を養う。	・食品に含まれる成分や特性、おいしさ等の基礎知識について修得する。 ・調理過程における成分間反応について理解し、調理科学的視点をもって調理操作を捉えられるようになる。	3	1	2	1	1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ（家政教育専攻）

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。                  (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。                  (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。                  (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。                  (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3：DP達成のために特に重要な目標 2：DP達成のために重要な目標 1：DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S574009	陣内雄次	住環境論	住まいの室内及び室外環境について、デザイン（インテリアデザイン、街並み景観）、環境共生（住まいの環境共生、エコロジカルタウン）という観点から講義する。	家政教育専攻の教科専門科目の一つとして、住環境に関する基礎的知識を幅広く提供し、この分野への関心を喚起する。	・住まいの室内外の環境及び街環境について、デザイン・景観、環境共生という観点から基礎的知識を習得する。 ・また、それらの知識を基に、主体的に良好な住環境づくりに取り組む姿勢を育てる。	3	1	1	2	1
S562000	陣内雄次	住生活環境実習	住まいの企画、プランニング、設計デザインを演習形式で行う。	家政教育専攻の教科専門科目であり、家政教育専攻の1専門分野である住居学に関して、特に住宅の設計デザインへの意欲を喚起するとともに、主体的に住まいの環境づくりに関わっていく姿勢を育てる。	・住まいの設計デザインとその教育に関する基礎的な知識と技能を修得する。	3	1	1	2	1
S578004	良 香織	児童福祉論	「児童虐待」など子どもの社会的排除を主とする課題認識を手がかりに、歴史的に築かれてきた子ども福祉の理念・法律・サービス等に関する理解を深め、子どもの最善の利益が子どものかわるすべての生活場面（法律・制度、施設・機関の運営、子ども福祉の実践の各レベル）に貫かれる社会の実現に向けて、私たちができることは何か、当事者として考える。	家庭科の教科専門の柱の1領域の位置づけです。	子どもを取り巻く様々な生活問題を認識し、子どもの福祉分野による対応施策を学ぶことを目標とする。	2	2	2	2	2
S555004	佐々木和也	家庭電気・機械及び情報処理	子どもと情報社会の関係は家庭科においても無視できないものである。それらを議論する前提での生活システムを電気・機械・情報の視点から講義する。	高等学校「家庭」の免許を取得するための必修科目であり、生活デザイン(技術)を指導するための専門性を養成する。	・子どもの発達と情報化における基礎的知識を修得する。 ・生活に関する電気学・機構学・情報学の基礎的素養を修得する。 ・家庭科における情報教育の役割を考えられるようになる。	3	2	2	1	2
S584101	佐々木和也	衣生活環境実験	被服素材論を中心に、衣生活論、衣環境論等の被服領域の講義の理論を、実験実習を通して理解を深める。	中学校・高等学校「家庭」の免許を取得するための選択必修科目であり、快適な衣生活を指導するための実験的スキルを養成する。	・伝統染織に関する実習より衣生活の現代的意義について考えられるようになる。 ・衣生活環境を客観的に評価するための実験スキルを身につけている。 ・実験データに基づいて結論を導き出せるようになる。	2	2	3	3	1
S586529	大森玲子	食生活環境実験	食物を科学的に捉えることを中心に、食品の加工、食品の調理性、食品に含まれる栄養素などについて実験する。	中学校・高等学校の「家庭」免許を取得するための選択必修科目であり、食を自然科学的に捉える方法について学ぶ。	・基本的な実験操作や実験器具類の取扱い、食品加工の方法、食品間の化学反応への理解、食品に含まれる成分の検出や合成方法、の4項目を修得する。	3	2	2	2	2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ（家政教育専攻）

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。                  (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。                  (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。                  (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。                  (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3：DP達成のために特に重要な目標 2：DP達成のために重要な目標 1：DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S859500	陣内雄次	住生活環境実験	住まいの室内環境を様々な測定機器などを使い測定するとともに、その測定結果と器材を活用した授業計画を立案する。また、バリアフリーリフォームの講義と実習も行う。	家政教育専攻の教科専門科目の一つとして、住宅の内部環境を的確に測定できる知識と技能を修得するとともに、バリアフリーリフォームの基礎的技術を身に付ける。	・住宅の内部環境を中心に、環境要因の測定器材の使い方や測定結果の意味などに関する基礎的知識を得るとともに、それらを題材とした授業計画を立案できるようになる。 ・バリアフリーリフォームに関する基礎的知識と技能を得る。	3	1	2	1	1
S564106	良 香織	中等家庭科教育法	中学校・高等学校の家庭科教育の目標と内容を理解し、授業の構成力、教材開発力、授業における基礎を学ぶ。	中等教育における家庭科の位置づけと対応します。	中学校・高等学校の家庭科教育の目標と内容を理解し、授業の参加観察方法とフィールドノートの書き方を身に付け、家庭や地域に根ざした授業デザインができることを目標とする。	3	2	2	2	2
S564114	良 香織	中等家庭科教育法	中学校・高等学校の家庭科教育の目標と内容を理解し、授業の構成力、教材開発力、授業における基礎力を学ぶ。	中等教育における家庭科の位置づけと対応します。	中学校・高等学校の家庭科教育の目標と内容を理解し、家庭や地域に根ざした授業デザインができることを目標とする。	3	2	2	2	2
S565000	良 香織	中等家庭科教育法	若者のライフコースの変化をつかみ、家庭や地域の生活を創造する現代的な家庭科教育の課題に応える授業デザインについて学ぶ。	中等教育における家庭科の位置づけと対応します。	家庭や地域の生活を創造する能力や実践的な態度を養う授業デザインの知識とスキルを身につける。	3	2	3	2	2
S566006	赤塚朋子	中等家庭科教育法	中等教育における家庭科教育の位置づけ、小・中・高の一貫性と系統性を検討し、模擬授業とそこから学び取れた課題をまとめ、教材開発を念頭において1単元の授業案を完成する。	中等教育における家庭科の位置づけと対応します。	中等教育における家庭科教育の位置づけ、教育内容の系統性をふまえ、家庭科の教育内容及び教育方法について検討し、生活者として主体的に生活を創造する力を育成する家庭科のあり方を構想することを目標とする。	3	2	3	2	3
S861008	佐々木和也	生活アメニティ論	生活はエコシステムの最小単位であり、環境のあり方を決定付ける価値パターンとみなすことができる。本授業は、生活環境のあり方をアメニティ科学の視点から講義し、快適とは何かを考える。	中学校・高等学校「家庭」の免許を取得するための選択専門科目であり、快適な生活環境を指導するための基礎的知識を養成する。	・アメニティ(快適性)科学の基礎的知識を修得する。 ・現代生活の課題をアメニティの視点から考えられるようになる。	2	3	1	1	2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ（家政教育専攻）

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。                  (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。                  (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。                  (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。                  (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3: DP達成のために特に重要な目標 2: DP達成のために重要な目標 1: DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S575005	非常勤(小山)	生活意匠論	我々の身体を形作る「衣」に関連した特定の「色」や「かたち」の表象関係の成立と変容を理解するとともに、デザインと結びついているイメージを歴史的にさかのぼって考察する。特定のデザインを選び取っていく「集会的」感性(例えば、カッコいいと感じる瞬間)を創り出していたものは何であったのかを理解する。	家政教育専攻の専門科目として、生活デザインに関する基礎知識を習得する事を目標としている。	色やかたちによって「可視化された情報」に対しての、様々な局面での取捨選択能力こそが、我々の生活様式を具体的に作り出してきた「感性」だと言えるが、問題は、それらの感性が「集会的」感性という支配的枠組に知らず知らずの内に依存していること、その「集会的」感性もまた社会的価値体系に制御されて機能しているという点である。この枠組みを認識することが重要となる。「感性」は何らかの影響を受けながら創られるものであること、それゆえに常に再構築可能なものであることを意識化することが授業の到達目的である。	2	2	2	3	1
S589006	佐々木和也	生活環境論	生活環境論の知見を基にして、ローカル性及び伝統性を地域の生活環境の創造に生かして行く手法について、演習をおとして実践的に理解する。	中学校・高等学校「家庭」の免許を取得するための選択専門科目であり、生活と環境についての実践的知識を養成する。	・地域の環境課題を在在的視点で捉えられるようになる。 ・地域のあり方を地元学・地域学的観点から考えられるようになる。 ・環境教育(ESD)を生かした地域づくりについて考えられるようになる。	2	3	2	3	2
S579000	赤塚朋子	生活福祉論	生活や福祉の基本的概念をふまえて、生活者から問う福祉社会のあり方を検討し、生活福祉のあり方を模索する。	専攻の専門科目です。	生活者の視点から福祉をとらえ、生活の福祉とは何か、生活福祉のあり方とはどうあるべきか、について考察し、変化する社会から発生する生活問題の原因を検討し、その解決の方策を考えることを目標とする。	1	2	2	1	1
S568009	赤塚朋子	消費生活論	消費生活の拠点として家庭をとらえ、家族、家庭経済と消費生活のかかわりを中心に、消費の概念の変化についても検討し、消費生活を営む消費者に視点を合わせ、消費者の権利と責任、消費生活関連法、消費者問題、消費者教育、環境を意識し、持続可能な社会形成に参画する消費者のあり方や環境問題とライフスタイルの関係について学ぶ。	専攻の専門科目です。	消費生活の拠点として家庭をとらえ、家庭経営の視点から消費生活論を論じる。生活者をとりまく社会的経済的環境の変化の実態を把握し、現代の消費生活がかかえる課題を明らかにすることを目標とする。	2	2	2	2	1
S925308	大森玲子	食教育論	様々な発達段階における子どもの栄養に関する基礎知識について講義する。栄養・食生活に関する教育や指導で用いる教材について検討し発表する。	家政教育専攻の選択専門科目の一つとして、子どもの食や栄養、健康に関する知識および指導法について修得する。	・食に関する基礎知識、子どもの食生活と栄養、食育の実践方法などについて理解する。	2	2	3	1	1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ（家政教育専攻）

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。                  (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。                  (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。                  (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。                  (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3: DP達成のために特に重要な目標 2: DP達成のために重要な目標 1: DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S567100	非常勤（小澤）	子どもの保健	心身の問題だけでなく、栄養、生活、母子関係、環境、関連する社会制度や施策などの基本的知識を学ぶ。	専攻の専門科目である。	「こどもは大人のミニチュアではない」ことを心と体の両面から理解し、「心と体の健康な子ども」の発育・発達に必要な医学や看護の知識を学び、自信とゆとりと喜びを持って子育て・保育・教育に対応できる保育者（親・保育士・教諭）の卵になる人材育成を目指す。	1	2	2	2	1
S900011	良香織	保育原理	生活や遊びを通じた総合的指導を原理とした就学前の保育・教育についての基本的な考え方や方法について理解を深める。	家政教育専攻の専攻専門科目の一つとして、保育原理への幅広い興味関心を喚起する。	就学前の保育・教育について理解を深めるため、小学校からの教科を中心とした教育とは異なる生活や遊びを通じた総合的指導を原理とした就学前の保育・教育についての基本的な考え方や方法について学ぶことを目標とする。	3	2	2	2	2
S858503	陣内雄次	地域居住論	地域の居住環境を幅広い観点からとらえ、まちづくり、市民参加の手法、都市計画関連法規、街並み景観、NPO・ボランティアなどを取り上げる。	家政教育専攻の専攻専門科目の一つとして、住まいと街環境への幅広い興味関心を喚起する。	・まちづくり、市民参加の手法、都市計画関連法規、街並み景観、NPO・ボランティアなどに関する知識を得る。 ・課題への取組を通して、より良い地域居住環境づくりのための関心を高める。	3	1	1	1	1
S859003	陣内雄次	住宅政策論	日本及び海外の住宅政策の変遷、課題、将来の見通しなどについて講述する。	家政教育専攻の専攻専門科目の一つとして、住宅政策への幅広い興味関心を喚起する。	・日本、欧米諸国の住宅政策に関する知識を得るとともに、住宅政策への関心を喚起する。	3	1	1	1	1
S582001	清水裕子	被服構成実習	各自設計した衣服を製作することにより、衣服の構造、構成方法を理解し、設計した衣服の着心地を確認する。  本授業では、立体構成として、ブラウスまたは、シャツまたは裏なしジャケットを取り上げ、容衣の構造、立体構成の方法を理解し、着心地や着装方法を確認する。	被服構成論との関連をはかっている。理論的な学習に基づき、実際に構成することを学習する。	平面の布を衣服の形にするばかりではなく、動作を阻害しない快適な着心地を与える衣服の構造について縫製の面から理解を深めることを到達目標とする。	2	1	3	2	2
S585000	大森玲子	調理実習	調理実習Ⅰの基礎的知識や技術を発展させた内容となり、和食、洋食、中華等の他、各国のメニューを取扱う。また、行事食、伝統食について食文化的背景を踏まえながら実習する。最後は各班で献立立案から実習までを行う。	家政教育専攻の選択専門科目の一つとして、教員として不可欠な調理実習の技術を向上させ、調理実習への指導法について学ぶ。	・調理における知識や技術を高度に活用できる。 ・行事食・郷土食や各国の料理について説明でき、作成することができる。	3	2	2	1	1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (家政教育専攻)

ディプロマポリシー	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S590500	家政全教員	家政研究セミナー	教員全員がそれぞれの専門分野を中心に研究成果等を取り上げ、教員の問題提起、あるいは受講生自らの問題設定を行う。	全専門分野を知り、そのなかから関心に基づいて受講者が各専門分野を選択できるようにする。	家政教育に関する諸分野について、自発的に問題意識を持ち、調査研究し、論理的に考察し、それを口頭および文章で表現する能力、集団において議論する能力を養うことを目標とする。	2	2	2	3	2
S590536	家政全教員	家政研究セミナー	受講者が興味・関心のある学術論文を読み、内容について要点を整理・発表し、各専門分野の知識を広げると共に、卒業論文の作成に向けて、研究の進め方、論文の構成、資料収集等について示す。	卒業論文の作成に必要な基礎的知識と技術を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文に向けて自身の興味関心を整理する</li> <li>論文の構成を理解する</li> <li>各自が卒業論文作成に必要な知識と技術を見出す。</li> </ul>	3	2	2	3	2
S591000	家政全教員	家政教育専攻卒業論文	家政教育の様々な問題に関心を持ち、先行研究の批判的検討を通して自己の理論展開を構築し、問題解決のための方法論を考え、論文の形で研究の成果をまとめる。	専攻専門の集大成である。	研究テーマを設定し、研究の成果を卒業論文としてまとめ、発表し、学生生活の集大成として今後への土台とすることを目標とする。	3	3	1	3	1